



学校便り 太田っ子

令和4年9月30日

めざす子ども像

- ㊦ もいやりのある子
- ㊦ もいっきり勉強する子
- ㊦ くましく生きる子

「主体的・対話的で深い学び」

文部科学省が定めている学習指導要領の中に出てくるこの「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、全国各地の学校で様々な授業研究が行われています。

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取り組みを活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められている。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」から抜粋

太田小学校でも「自分の思いや考えを伝え合い、深め合う子どもの育成～資質・能力を育むための対話的活動を求めて～」の研究主題のもと、その実現に力を注いでいるところです。具体的には、10月26日（水）に予定されています和歌山市教科等別研修会で、1年生と6年生の国語の研究授業を行うことになっています。和歌山市内の他小学校教員が参加し、授業を参観し、その後の協議会で子どもたちの実際の授業での様子などをもとにして、よりよい授業づくりをするために話し合うことになっています。今年度も大学教授や教育委員会の先生に指導助言をお願いしています。実り多き研修会にするために、今本校教員たちは、研究授業の準備にも力を入れているところです。

5年生の高野山合宿

かなりお天気に翻弄されましたが、何とか行ってくることができました。高野山森林組合の方たちの協力のもと、間伐体験をさせていただき、グループごとにヒノキの木をのこぎりを使って切り倒させてもらいました。指導してくださった先生に、切る前と切った後に必ず空を見るようにと指示されていた5年生たち。空の見え具合の違いを感じ、間伐をする意味を実感していました。宿坊での宿泊はもちろん、奥の院でのフィールドワークや自然観察、高野町散策でのおみやげの買い物など、5年生たちにとっては思い出に残る合宿になりました。山や森を歩くプログラムが多く、日中しっかり体を動かした5年生たちは夜の消灯の時刻になると、みんなぐっすり眠っていました。新型コロナウイルス感染が心配な中での実施でしたが、バスや宿坊での換気や手指の消毒等、5年生たちの協力も得て、安全に行ってくることができました。

教育実習生・学生ボランティア

本年度は1学期に和歌山大学の学生3人、2学期に京都ノートルダム女子大学の学生1人、東京医療保健大学の学生2人（養護実習）が来ています。県立医科大学看護学部からも16人の養護実習生を受け入れる予定でしたが、新型コロナウイルス感染の影響で中止となりました。また、インターンシップという形で、四天王寺大学の学生が1人、毎週金曜日に実習に来ています。加えて、和歌山信愛大学からボランティアとして4名の学生が、不定期ですが教室で子どもたちの学習に関わっています。実際に子どもたちと向き合う最前線の教育現場として教員育成にも貢献していきたいと考えています。子どもたちは若い先生たちの出現がうれしく、積極的にかかわっています。

いよいよ運動会です

子どもたちはここ数週間、一生懸命練習に励みました。本番当日は、1回きりの演技・競技ですが、その積み重ねてきた努力もしっかり見てあげてください。子どもたちの笑顔と感動があふれる運動会にするために教職員一同取り組みたいと思っています。